

「森の使者ジュラ」の舞台となる森林について

主なおはなしの舞台は、夏緑自然林です。日本では鹿児島県から北海道と広く分布し、ブナ属、ナラ属、シデ属、カエデ属などの種で構成されています。また絵の背景には針葉自然林が描かれています。

「森の使者ジュラ」は長野県松本市上高地の森を舞台として設定しました。



「森の使者ジュラ」のポイント

モリアオガエルは、木の上で生息する珍しいカエルで、池のそばの木の枝に産卵します。卵はふ化すると、池に落ちてオタマジャクシにかえります。下が池などの広い場所ではなく側溝などでも、落ちる場所が水場になるよう、枝のしなり具合を計算して、産卵するそうです。



←白いボール状のものがモリアオガエルの卵

兵庫県立南但馬自然学校敷地内「雨乃宮の池」(上記写真)のモリアオガエルを含む生態系は、2022年3月に朝来市の天然記念物に指定されました。

公式YouTubeでも南但馬自然学校の生き物を紹介しています！ぜひそちらもご覧くださいネ！

<https://www.youtube.com/watch?v=d4EjnEJhNbs>
兵庫県 南但馬の森を深掘り探検！～生き物編～ (youtube.com)



KOBELCO森の童話大賞HPの「おはなしを書く前に」で、森についての詳しい情報を発信しています。ぜひご覧ください。
HP www.kobelco-mori-ohanashi.jp

絵本活用のヒント

第11回小学生の部金賞受賞作品

「森の使者ジュラ」



KOBELCO 森の童話大賞について

森はたくさんのいきものの命を育み、空気をきれいにし、水をたくわえ、私たちの暮らしに安全と豊かな恵みを与えてくれます。でも、一度森が元気を失ってしまうと、元通りにするには長い年月と、大変な努力が必要になります。

このような「森」を理解し、大切にすることを、次の世代を担う子どもたちに育んでもらうため、KOBELCOグループは「森」をテーマにしたおはなしを募集し、絵本を作っています。

この絵本を読んで、一人でも多くの子どもたちが、森をはじめとする自然について考え、かけがえのないものであると気づき、そして、いつか、森を、自然を、元気にすることを何か一つでも実行していただければと思っています。

「森の使者ジュラ」の世界



クマイザサ (シナノザサ)

高さ2mほどのササ類。九枚笹と書くように、1株につく葉が多い。葉の表はつるつる、裏にはたくさんの細かい毛が生えている。冬は雪の中に埋もれることで寒さから身を守る。雪解けの頃に、ササを見ると、雪に埋もれていた所は緑で、雪からはみ出してしまった上の方は茶色く枯れている様子を見ることが出来る。

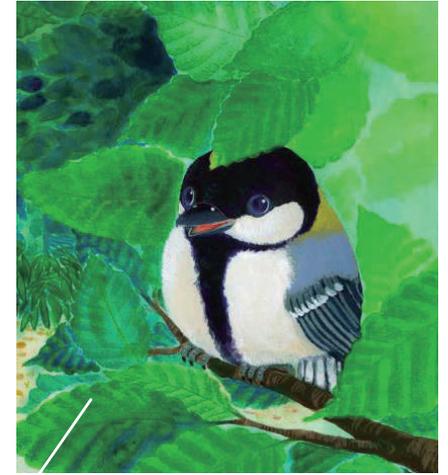
ハシブトガラス



ハルニレ

20-25mほどの夏緑高木。葉の表面に微毛がはえ、ザラザラとした触り心地で、ふちには二重鋸葉がある。

シジュウカラ



ブナ

20-25mほどの夏緑高木。葉は大きくふちが波打ち、葉脈の先端が波状の凹んだところへ向かっているのが特徴。ブナは日本固有種で、保水力が高く「緑のダム」と呼ばれており、また果実も多くの生き物の栄養源になっており、生物多様性を支える樹木として高く評価されている。

ニホンザル

コマドリ

オオルリ

ニホンカモシカ



ツキノワグマ

タヌキ

キツネ

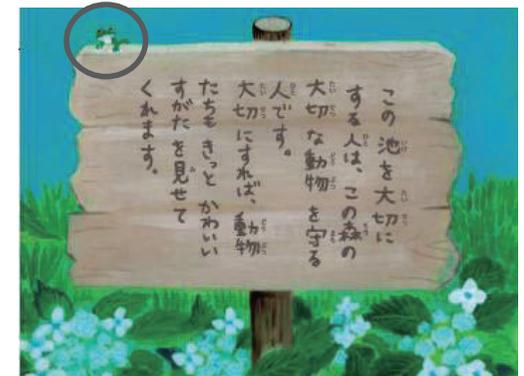
ホンドオコジョ

ニホンリス

ヒメネズミ



モリアオガエル



ヤマアジサイ